「不屈」No605付録
埼玉版（No433）

治安維持法犠牲者
埼玉県本部
〒330-0063
さいたま市浦和区高砂
2-3-10 黒澤ビル3B
電話・Fax 048-824-0094
chian2022@gmail.com
https//www.fukutsu13.com/
郵便振替 00110-7-83245

与党過半数割れ―自民一強の政治を終わらせた力

総選挙をおわって　加藤ユリ会長の談話

10月27日に行われた衆議院選挙で自民・公明与党は過半数を下回り、現職大臣2名、裏金議員28名が落選し、石破茂政権に大きな打撃をあたえました。各新聞は翌日「自民一強の時代は終わった、与党への不信の表れ」「自公民過半数割れ、政治とカネ響く」などと一斉に報道しました。自民党を追い詰めた発端は、日本共産党の新聞「赤旗日曜版」の裏金問題、さらに決定打となったのは裏金で非公認になった候補に自民党本部から政党助成金を使って2千万円振込んだ事を「赤旗日刊紙」が暴き、自民の1強を終わらせる決定打になりました。

自民党・公明党は少数与党で政権運営をする不安定政局が待ち受けています。

一方、政治のいきづまりを改革する新しい激動の時代のはじまりではないでしょうか？大軍拡、憲法改悪を阻止する国民の共闘の力が いっそう大切になってきます。草の根の結びつきを強めて行きましょう。

10月30日　記

会長　加藤　ユリ

憲法守る決意固め9条生かした平和外交を…

選挙結果に思う　副会長　小池　荘市

この度の総選挙で、改憲派勢力が改憲発議に必要な3分の2の議席を割り込みました。非常に大きな意味があると思います。改憲派が9条に簡単に手を付けることが難しい状況をつくったのではないでしょうか。

総選挙後に石破首相は、「党是である憲法改正を前に進める」と改めて宣言しました。首相が9条改憲を正面に掲げる背景と狙いは、米軍との司令部機能の統合、敵基地攻撃能力の保有、武器輸出など安保3文書に基づく「大軍拡」の推進で、米国の軍事戦略とまさに一体のものです。

日米安保にもとづき米国と一体の軍事体制を本気でつくろうとすれば、憲法9条を変えざるを得ないのです。日米安保と憲法9条は矛盾しています。日米安保は核兵器つきの軍事同盟です。日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞を受賞したもとで、米国の核戦略を手助けし、核廃絶の動きに反対し続けるのかということも問われます。核兵器をなくしたいという世界の人々と手を結び、平和をつくっていくためにも、日米軍事同盟ではなく、憲法9条を生かした平和外交を進めていく事が必要です。

熱風

衆議院選挙の結果、与党の自民・公明の過半数割れをもたらしました。選挙中には相変わらず「共産党は党名を変えたら」との助言がありました。日本共産党の「共産」とは、広辞苑によると「財産を共有すること」とされます。そして「共産主義」とは、「生産力が高度に発達し、各成員が能力に応じて労働し、必要に応じて分配を受ける段階、これが狭義の共産主義」とあります。いいですよね▼ところで、政党の名称についていうなら、自由民主党の「自由」とは何でしょう。広辞苑に要ると、自由とは？「心のままであること。思う通り。自在。」と共に「他からの拘束・束縛・強制・支配を受けないこと。」とあり、「行動の自由、選択の自由、必然性の認識にもとづいて自身および自然を支配する積極的な自由、意志の自由、倫理的自由などのように」「人間を取巻く諸条件を統御することを意味する」と言います▼国民一人一人の思いや願いはさておいて、現代の資本主義社会においては、一部の資本家から託された願いを「一般国民からの拘束・束縛・強制・支配を受けない」で、実現していく政治を目指す政党であることを意味しているのでしょう。いかがですか？　（治）

年末にあたり〝会員・読者〟のみなさんのお願します

早いもので今年もあと1カ月余を残すこととなりました。会員のみなさまには、年末にあたり「会長の訴え」を出してお願いしておりますが、是非ご協力ください。

① 2024年度**会費納入**の促進、前納も含めお願いします。

② 1口千円規模の**「年末募金」**にご協力下さい。

③ 「不屈」**新年祝賀広告**（1口五千円）の応募にご協力下さい。

④ **「治安維持法と現代」**秋季号が出来ました。「定期購読」申込者受付中です。

「国会請願署名運動」、年内節目標30％達成にご協力ください

来年の国会請願に向け、埼玉県は1万筆の目標達成めざして取り組んでいます。いま、県本部は手分けして諸団体への申入れも行っていますが、達成のカギは会員のみなさまの10筆、20筆の取組みにかかっています。宜しくご協力ください。

＊下段の「行田支部」の経験をご覧下さい

活流 部交 支動

「種まく人びと」上映会に二十二人が参加―感動広がる…上尾支部

上尾支部は十月七日（月）午後、市内にて「種まく人びと」上映会を開催し、会員以外の人を含む二十二名が参加しました。

参加者からは「『歴史を学ぶことは、二度と繰り返さないため』との山田朗先生の言葉にはっとした。「犠牲者が亡くなるのを待っているような国の姿勢に一刻も早く責任を取らせたい」「今また、あの時代に戻るような危険な法律が次々と出てきており恐ろしい」「こんなことがあったことをもっと多くの人に知ってもらわないと」「誘われて参加したが、なかなか理解が難しい。資料があれば参考にできた」「良い映画でした。今後、DVDを購入して地域でも上映会を開催していきたい」、また「現在の憲法制定後の国民弾圧法にはどのようなものがありますか？」…などの感想や質問が寄せられました。

会場では「治安維持法とは何か」のブックレットが六部販売されました。

（「上尾支部ニュース」No.1より転載）

10月の会員は1名の前進でした

10月は、「特別月間」を設けて取り組みましたが、突然の選挙になったこともあり、充分な取組にすることができず、会員拡大1名、署名、個人215筆、団体2筆に留まりました。

今年も1カ月余を残すのみとなりました。大変忙しい時期ではありますが、各支部は、「年内目標」達成めざしてご活躍ください。

国会請願署名推進コーナー

【個人署名】（215筆）

埼玉土建県本部	104筆
川越地方労働組合連絡協議会	15筆
税制経営研究所	5筆
大宮平和美術会	16筆
国賠さいたま市南部支部	10筆
同　春日部支部	17筆
同　行田・羽生支部	33筆
同　上尾支部	15筆

【団体署名】（2筆）

川越地方労働組合連絡協議会	
行田協立診療所	

署名合計（10月末現在）

個人署名	1090筆
団体署名	10筆

支部結成以来、6年連続で国賠署名目標達成の教訓

行田・羽生支部

支部は、県同盟発足当時の県本部役員として奮闘された須永甫氏の顕彰運動の取り組みから出来た支部です。

当初は、3人の点在会員からスタート。この6年間で、会員は32名に増え、年に1度の総会を軸に、隔月支部会議や映画や学習講演会など様々な企画などに取り組んできました。中でも、同盟の第一の任務である国賠署名は、総会で個人と団体署名目標を確認し、①1人10筆、20筆を目標に、みんなで取り組む、②会長を先頭に、市内の労組や団体に申し入れ懇談し、協力を依頼、③5月の国会請願には毎回支部代表を派遣、22年度4名、23年度2名など、④メーデー、戦争展、映画会などの実行委員会に支部が参加し、同盟旗も掲げて、市内の平和団体の一つに認可されつつあるなどの広がりを作り出してきました。

発足当時から個人署名の年度別個人署名目標と実績は、次の通りです。18年度目標200筆（実績200筆）、19年度200筆（214筆）、20年度300筆（343筆）、21年度300筆（362）、22年度300筆（324筆）、23度年300筆（345筆）。　以上

新企画
第4回

戦争を語り継ぐ〝私の戦争体験〟

小池　荘市（84歳）

私が、いま生涯最後の仕事として「国賠同盟」の活動をしているのも戦争体験からきていると思う。

私は昭和15年生まれで、終戦の時はまだ5歳4カ月の幼児だったが、終戦の日の事を妙に鮮明に覚えている。晴れ渡った青空のもと畑の中に持ち出されたラジオの前で頭を垂れて玉音放送を聴く大人達を尻目に、はしゃぎ飛び回る幼き日の自分の姿を・・・。

私の生地は、東京・神田だが、終戦の年の2月の東京空襲で神田周辺に焼夷弾が落とされ自宅は全焼した。前の年の4月に母親の生家のある信州上田へ疎開していたので家族は全員無事だったが、全財産を失うことになる。

私の戦争体験は、あの信州の片田舎にもB29が飛んできて、空襲警報が発令されると、自宅の小さな庭に掘った家族がやっと入れる防空壕に逃げ込んだ怖かった記憶や夜になると電灯の周りを風呂敷で囲んで光が外に漏れないようにする窮屈な生活も思いだすが、それよりも、むしろ、戦争によって庶民にもたらされた戦後の悲惨な生活にあると感じている。

戦後の混乱期、東京では親を失った戦争孤児が巷にあふれたと云われたが、疎開地の信州でも、傷痍軍人が街角に立ち物乞いをする姿が暫く続いたし、私の隣の家の息子は戦地でマラリアに罹って戻り、隔離部屋を作って看病していたが間もなく亡くなった。また、私のクラスにも戦争で父親を亡くした子が3人もいた。その点で、わが家は父親が戦地に行かず家族に戦死者を出さずに済んだので幸いだったかも知れない。しかし、父親の失業もあって東京へ戻る事も出来ず、明日の米をも買えない苦しい生活を過ごすことになる。買い出しに行くたびに母親の着物が1枚1枚減っていく生活が続き、学校に給食費を持って行けなかった時の辛い気持ちを今でも思い出す。だから、幼いながらも〝戦争さえなかったら〟と考えながら成長して来たように思う。

18歳で憧れの東京に出て就職し、いろいろ学ぶ中で、あの時代に戦争に反対した人々がいたことを知り感激、人生観を変えるきっかけにもなった。そして、日本の戦後政治が、A級戦犯や「特高」等が生き延び、アメリカとの従属関係を深めながら、日本の戦後政治をゆがめてきたこと。いまの自民党政治の根本に、戦争と弾圧の歴史への無反省がある事などを学び、現在、「再び戦争と暗黒政治を許さない」国賠同盟の活動を続けている。

「核抑止論」を含め〝武力で平和はつくれない〟事を肝に銘じ、戦争の記憶が僅かでも残っている最後の世代の責任として、「戦争は絶対やってはならない」の声を上げ続けたい。

創立五〇周年記念誌を読んで

春日部市　福家駿吉

戦前明治憲法の下、社会進歩を進める人達に対し治安維持法をつくり激しい弾圧を加えました。

この「記念誌」は、県内の弾圧に抗して立ち上がった人達と事件を、年代を追って記録されています。また、埼玉に関わる犠牲者名簿も丹念に調べて二六〇名の方々が記載されています。戦前の闘いの年表は大変勉強になるし、50年の「県同盟の歩み」は、昔を振返って懐かしく楽しく読むことができます。

今、自公政権は軍拡と反動法を強行し、安保法制のもと、アメリカに従属して戦争準備の体制を強めていますが、この記念誌は、きっと平和と民主主義をまもる闘いに役立つ事でしょう。

同盟文芸

短歌

仏壇の位牌が出てきた新党首
　手の平返しのニューリーダーも
　　春日部市　細谷　宜朗

累上で敵選手とにっこり大谷さん
　試合楽しむ野球少年かな
　　宇都宮市　宮地　さか枝

俳句

青葉一面中より水色ジャガの花
　　春日部市　浅子　薫衣

久々に家族で旅に秋美味し
　　行田市　大野　辰男

袴田無罪四字見つめる秋灯下
　　さいたま市　小池　荘市

コンバイン稲刈る後に鳩の群れ
　　行田市　鈴木しげる

秋深し庭の小枝に渡り鳥
　　行田市　鈴木　みち

川柳

九条の盾で囲もうガザの子を
　　さいたま市　小池　荘市

総選挙　裏金自民に　天罰が
　　春日部市　福家　駿吉

埼玉県の戦前における「社会進歩のたたかいと抵抗の歴史」

連載
第15回

埼玉の教師たちの闘い

啓明会の活動・・・一九一九（大正八）年八月、当時、元埼玉師範教師だった**下中弥三郎**（兵庫県出身のち平凡社社長）を指導者に、県下の埼玉師範出身の小学校教師らによって啓明会の活動が開始され、四日に、東京神田の青年館で発会式を上げます。その宣言は、「一、我等は真人間の性格を基調とする社会生活の実態を理想とす。故に公正なる人間一切の要求を肯定し、公正なる凡て社会の存在を尊重す」と述べています。また、その趣意書には、「力の団結として教育者の職分的自覚を高調し」「誤れる一切の思想と闘い、混沌として帰趨に迷える民衆生活に一台光明を投げ与えなければならぬ」と記述しています。これは、教師の団結による民主教育の宣言であるともいえるでしょう。

啓明会の活動は、わが国の民主主義教育運動の先鞭をなすものでありました。啓明会の第二回大会は、一九二〇（大正九）年二月に、熊谷で開催されました。同年九月、「日本教職員組合啓明会」を名乗るに至ります。

日本教育労働者組合と新興教育研究所・・・日本教育労働者組合（教労）は、一九三〇（昭和五）年に結成されます。

創立大会は、非合法でしたが、多くのメッセージが各方面から寄せられます。桜沢小学校（旧桜沢村、現寄居町）の教師、**高橋幸昌**は、教労の活動に深くかかわっていたと考えられ、そのことが、いわゆる「赤化教員事件」で寄居署に逮捕された大きな理由になります。教労の目的は、次のように定められていました。①組織の闘争で、教育労働者の生活維持改善を計り、プロレタリアートの勝利による一般被圧迫大衆の解放と共に、教育労働者の完全開放のために闘う。②反動教育化のプロレタリア、貧農児童の物資的、精神的生活保護、学校生活の改善を計るとともに、資本家、地主教育撲滅とプロレタリア教育の建設のために闘う。③各産業労働組合、農民組合と綿密な連携、援助的な地位に於いて、その闘争の発展と勝利のために闘う。④国内及び国際に於ける教育労働者運動の戦線統一を期す。

新興教育研究所（新教）は、「新労」結成の三カ月前に創設されます。教労の宣伝、啓蒙部門を受け持つ機関でした。その創立宣言には、次のような文章が記述されています。「現教育は、封建的残存物清算で、未熟な日本ブルジョア文化を反映する」ものであり、「新興教育の科学的建設」が必要である。

赤化教員事件・・・一九三一年（昭和六）八月、桜沢小学校教師、高橋幸昌、北条英が突如、寄居警察に逮捕されます。世に言う「赤化教員事件」です。当時、『東京朝日新聞』埼玉版には、次の記事が掲載されました。「県特高課では、新興教育研究会に県下小学校教員の調査に努め、大里郡桜沢小学校准訓導高橋幸昌（二二）を退職せしめるに至ったが、またまた同校選科正教員、北条英（二二）も関係していること判明、二十四日午後一時、寄居署に対し、両人検束の指令を下し、同署では同日深更、両名を検束して引致すると共に家宅捜査を断行したが、証拠品を押収することはできなかった。

「赤化教員事件」は、弾圧政策の典型的な現われでした。特高に逮捕された北条英は、過酷きわまる拷問をうけます。「ある日には、目隠しをされ、五、六人の警官にベルトで叩かれ、腰が立たずに、這って面会に出てきたこともありました。また、あるときは、鉛筆を手の間に何本もはさみ、思いきり締め付けられ、赤く膨れ上がり、その手で『坊主来たか』と言って面会に来た我が子龍介の頭をさすったのです。それでも一歩も譲らず自分の意思を貫き通したので、永い永い留置場生活でした」と妻の北条百合子さんが著書で語っています。

（次号はメーデー）

本連載含め立派な本になりました

埼玉県本部　創立五〇周年記念誌

〝歴史に学び　新しい明日へ〟　普及を

① 社会進歩のたたかいと抵抗の歴史
② 世界・日本・埼玉の現代史年表
③ 埼玉県「国賠同盟」50年の歩み
④ 埼玉ゆかりの「治安維持法等犠牲者」260名の名簿を詳細に公表
⑤ 「犠牲者」の肖像画と各種資料

B5版　213頁
頒価 1200円
注文は県本部迄

＊読了された方の〝感想文〟募集中です